

# 3 戦略を進める

定めた基本戦略のもとで、どのような具体的な戦略が描けるでしょうか。

15 年間で戦略を着実に実現していくためには、

こういった手法で進めていくべきでしょうか。

また、戦略を形にするための作戦や行動とはどのようなものでしょうか。

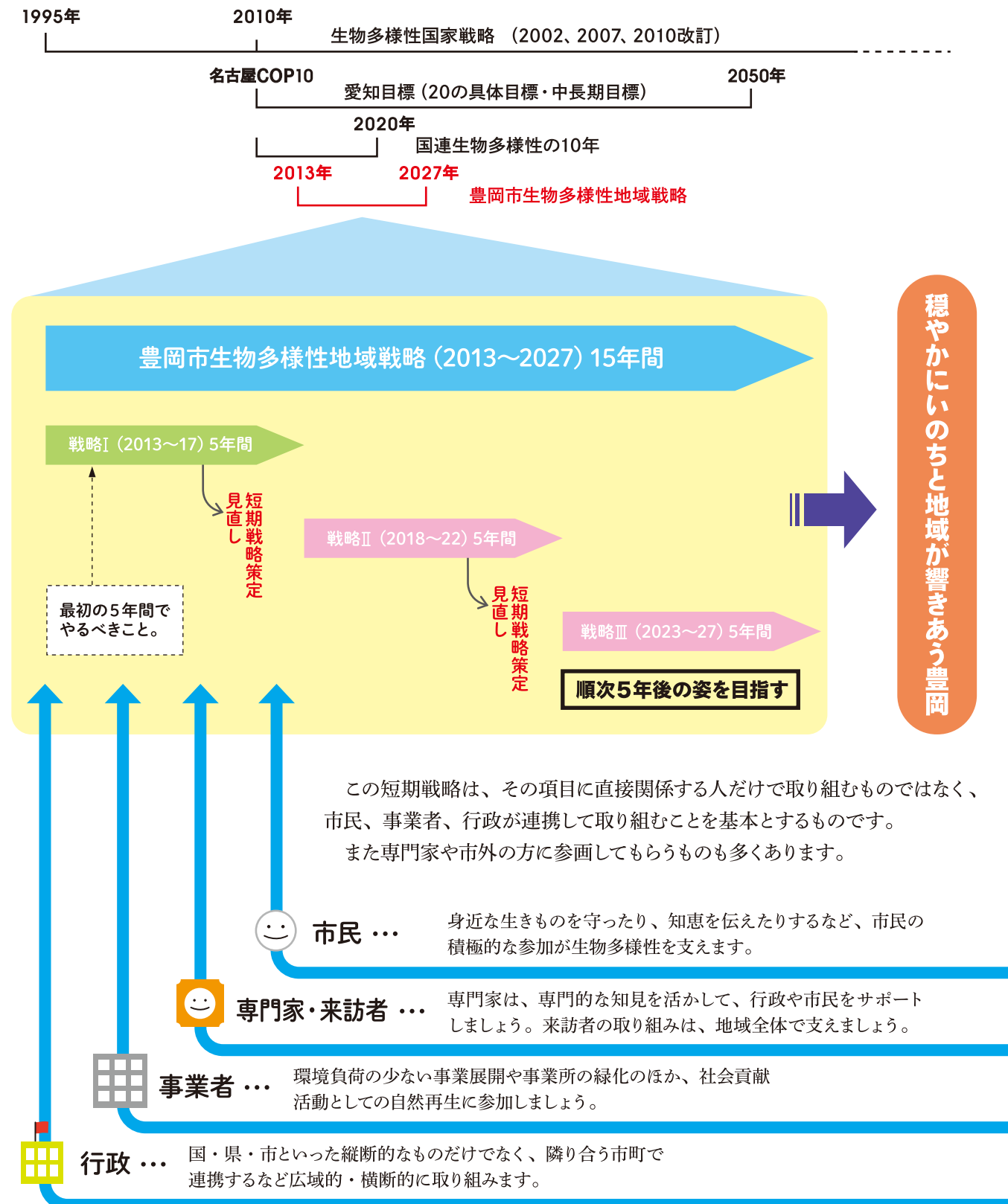
この章では、戦略を実践に移すべく、行動を具体化します。



## 1 5年ごとの戦略

### 5年を一つのサイクルに 段階的に戦略の実現を図る

15年後の目標像の実現に向けて、基本戦略のもと、5年ごとの短期戦略を定めます。  
5年経過した時点で、進捗状況や自然・社会・文化環境の変化に基づいて見直し、次の5年間の戦略を立てます。  
さらに次の5年間も同様に行い、この戦略の実施期間である15年を全うします。



## 2 目指すべき5年後の姿

### 目指すべき5年後の姿を描き 取り組むべき作戦(短期戦略)を整理する

地域の自然の豊かさや脆さについて、理解が深まってほしい。

豊岡には、脈々と受け継がれてきた自然が多く残っています。また、これまでの取り組みの結果、取り戻してきた風景もあります。それぞれの地域にある豊かな自然や生きものの特性を知り、保全や再生など、次の行動につなげる必要があります。

→ まずは知る = 作戦1

多様な生きものが住める環境が増えてほしい。

いま自然界では、人間の脅威や外来種の影響にさらされることなく動植物が生きていける環境が減少しています。地域の風土に合った本来の姿を目標に、それぞれの生きものがすみやすい場所を保全・再生・創出する具体的な行動が必要です。

→ 行動に移す = 作戦2

地域の基盤となる第一次産業が育ってほしい。

農業に代表される第一次産業は、自然に対する働きかけが生産の基本になっています。これらの、生きものの暮らしと深く関係している産業を守り育て、自然の循環を大切にしながら、共同体の基盤を強化しなければなりません。

→ 基盤を守る = 作戦3

人と人、地域と人とのつながりが深まってほしい。

一度失われた自然を復活し、守り、次世代へと引き継ぐ取り組みは、その関係者だけで解決できるものではありません。豊かな自然と文化を取り戻すため、さまざまな人が学び協力しあう仕組みが必要です。それは、地域の力を高めることでもあります。

→ つながり合う = 作戦4

作戦の実行を促すしくみができてほしい。

それぞれの作戦が実効性を伴ったものになるための手法や、サポート体制を整える必要があります。

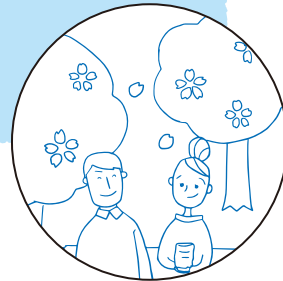
→ 効果を高める = 作戦5



作戦は5つ！ それぞれに目標とする姿を定める

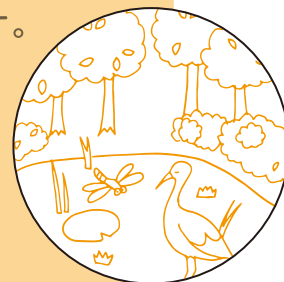
## 1 「まずは知る」作戦！ 地域みんなが、地域の自然の豊かさや脆さを わかるようにします。

- 目標1  
生きものの様子から季節の変化を感じ取り、その話題で会話が弾んでいます。
- 目標2  
「生きもの博士」と呼ばれる人が増えています。
- 目標3  
地域の生きものの現状が科学的に整理され、その情報が共有されています。
- 目標4  
小学校区ごとに「生きもの地図」が備えられています。



## 2 「行動に移す」作戦！ 多様な生きものが住みやすい環境を増やします。

- 目標1  
行政も地域も、生きものに配慮した行動を心がけています。
- 目標2  
豊岡で暮らすコウノトリたちが、安定して生活しています。
- 目標3  
市内各地に「春の小川」がイメージできる水辺があります。
- 目標4  
市街地・住宅地でも多くの生きものと触れ合うことができます。
- 目標5  
ラムサール条約登録エリアが広がりました。
- 目標6  
在来の生態系を乱す外来種の侵入・増加を防いでいます。
- 目標7  
希少になった生きものや生態系に、個別の保護対策が進められています。



## 3 「基盤を守る」作戦！ 地域を支える第一次産業を育てます。

- 目標1  
農薬や化学肥料に頼らない農業が増え、田んぼの生態系が豊かになっています。
- 目標2  
市民や消費者と交流する生産者の顔が輝いています。
- 目標3  
地元で採れたものを優先して食べる人が増えました。
- 目標4  
若い世代が第一次産業の大切さを理解しています。



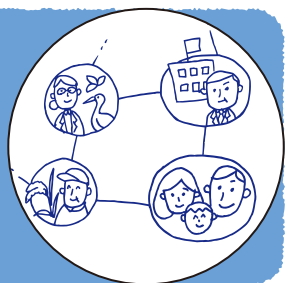
## 4 「つながる・つなげる」作戦！ 人と人、地域と人とのつながりを深めます。

- 目標1  
自然の中で遊ぶ子どもの姿をよく見るようになりました。
- 目標2  
親子で生きものや自然に触れ合う機会が増えています。
- 目標3  
地域の文化や伝統的な知恵・技が受け継がれています。
- 目標4  
交流施設では、楽しい声が弾んでいます。
- 目標5  
日本中、世界中から訪れる人がいて、地元の人と交流しています。



## 5 「効果を高める」作戦！ 作戦を実行しやすいしくみをつくります。

- 目標1  
行動のすべては、「見試し」の手法で実践されています。
- 目標2  
この戦略の実践を支える拠点が機能しています。



4 具体的な取り組み

| 〈作戦1〉「まずは知る」作戦！<br>地域みんなが、地域の自然の豊かさや脆さをわかるようにします。 |                                        | 関係するコミュニティ活動 |        |       |    |     |       |     |    |
|---------------------------------------------------|----------------------------------------|--------------|--------|-------|----|-----|-------|-----|----|
|                                                   |                                        | 公民館          | 学校・PTA | 地域・市民 | 団体 | 専門家 | 農林水産業 | 事業者 | 行政 |
| 目標1．生きものの様子から季節の変化を感じ取り、その話題で会話が弾んでいます。           |                                        |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                                   | ① 豊岡に住む生きものをリストアップし、「豊岡生きもの住民票」を作成します。 |              |        | ○     | ◎  | ○   |       |     | ◎  |
|                                                   | ② 豊岡らしい季節のこトバを集めた「豊岡時候のあいさつ集」を作成します。   |              |        | ◎     | ◎  |     |       |     | ○  |
|                                                   | ③ 防災行政無線の放送で、これらの内容を積極的に活用します。         |              |        |       |    |     |       |     | ◎  |
|                                                   | ④ 季節の特徴的な生きものや植物の観察会を開催します。            | ○            | ○      | ○     | ○  | ○   |       |     | ○  |
| 目標2．「生きもの博士」と呼ばれる人が増えています。                        |                                        |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                                   | ① 地域の生きもの博士情報を集め、「豊岡生きもの博士名鑑」を作成します。   | ○            |        |       | ◎  | ○   |       |     | ○  |
|                                                   | ② 博士を増やすための「生きもの検定」を実施します。             | ○            | ○      | ○     | ◎  | ○   |       |     | ○  |
| 目標3．地域の生きものの現状が科学的に整理され、その情報が共有されています。            |                                        |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                                   | ① 地域の生きもの情報を詰め込んだ「豊岡版GIS」を構築します。       |              |        | ○     | ○  | ○   |       |     | ◎  |
|                                                   | ② その情報を、公共工事や自然再生の取組みに活用します。           |              |        | ○     | ○  | ○   |       |     | ◎  |
| 目標4．小学校区ごとに「生きもの地図」が備えられています。                     |                                        |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                                   | ① 「生きもの地図」づくりをサポートするしくみをつくります。         |              |        | ○     | ○  | ○   |       |     | ○  |
|                                                   | ② 地図の作成、活用に関するマニュアルをつくります。             |              |        |       | ○  | ○   |       |     | ◎  |
|                                                   | ③ いくつかの小学校区で、モデル的に「生きもの地図」を作成します。      | ◎            | ◎      |       |    |     |       |     |    |

| 〈作戦2〉「行動に移す」作戦！<br>多様な生きものが住みやすい環境を増やします。 |                                        | 関係するコミュニティ活動 |        |       |    |     |       |     |    |
|-------------------------------------------|----------------------------------------|--------------|--------|-------|----|-----|-------|-----|----|
|                                           |                                        | 公民館          | 学校・PTA | 地域・市民 | 団体 | 専門家 | 農林水産業 | 事業者 | 行政 |
| 目標1．行政も地域も、生きものに配慮した行動を心がけています。           |                                        |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                           | ① 公共事業における「生きもの配慮の指針」をつくります。           |              |        |       |    | ○   |       |     | ◎  |
|                                           | ② 地域で行うクリーン作戦を「クリーン&グリーン作戦」へと転換します。    |              |        | ◎     |    |     |       |     | ○  |
|                                           | ③ 「歩いて暮らすまちづくり」に環境保全の要素を附加します。         |              |        | ○     | ○  |     |       |     | ◎  |
|                                           | ④ 生物多様性保全のためにも「豊岡市景観計画」を推進します。         |              |        | ○     |    |     |       | ○   | ◎  |
| 目標2．豊岡で暮らすコウノトリたちが、安定して生活しています。           |                                        |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                           | ① コウノトリ野生復帰に関する市民との情報共有を強化します。         |              |        |       | ○  | ○   |       |     | ◎  |
|                                           | ② 見守りなどを通じて、野外のコウノトリと地域との関わりを生み出します。   |              |        |       | ○  | ○   |       |     | ◎  |
|                                           | ③ コウノトリの生息地保全（保存・再生・創造）を進めます。          |              |        | ○     | ◎  | ◎   |       |     | ◎  |
| 目標3．市内各地に「春の小川」がイメージできる水辺があります。           |                                        |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                           | ① 「春の小川」の基準を定めます。                      |              |        |       | ○  | ○   |       |     | ◎  |
|                                           | ② 「春の小川」づくりをサポートするしくみをつくります。           | ○            |        |       | ○  | ○   |       |     | ◎  |
|                                           | ③ モデル的に「春の小川」づくりに取り組む地域を募り、実践します。      | ◎            |        | ○     |    |     |       |     | ○  |
| 目標4．市街地・住宅地でも多くの生きものと触れ合うことができます。         |                                        |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                           | ① 市民は、プランターや庭で緑を生み出します。                |              |        | ◎     |    |     |       |     |    |
|                                           | ② 地域は、神社や公園を緑や生きものの拠点として管理します。         |              |        | ◎     |    |     |       |     |    |
|                                           | ③ 行政は、各ポイントを「回廊」として機能させることを意識します。      |              |        |       |    |     |       |     | ◎  |
| 目標5．ラムサール条約登録エリアが広がりました。                  |                                        |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                           | ① 登録エリアにおける保全やワイズユース（賢明な利用）の取組みを充実します。 |              |        |       | ○  |     |       |     | ◎  |
|                                           | ② 登録エリアをモデルに取組みや意識を周辺に広げ、エリアを拡大します。    |              |        |       | ○  |     |       |     | ◎  |
|                                           | ③ 学校教育でラムサール登録に触れ、誇りを醸成します。            |              | ◎      |       |    |     |       |     |    |
| 目標6．在来生態系を乱す外来種の侵入・増加を防いでいます。             |                                        |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                           | ① 外来種の監視と駆除を計画的に行います。                  |              |        |       | ◎  | ◎   |       |     | ◎  |
|                                           | ② 「豊岡版ブラックリスト」を作成します。                  |              |        |       | ◎  | ○   |       |     | ○  |
|                                           | ③ ブラックリストを用いた学習会を開催します。                |              |        |       | ○  |     |       |     | ◎  |
|                                           | ④ 地域の共同作業に、外来種対策の要素を組み入れます。            |              |        | ◎     |    |     |       |     |    |
| 目標7．希少になった生きものや生態系に、個別の保護対策が進められています。     |                                        |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                           | ① 希少生物の監視と保護を計画的に行います。                 |              |        |       | ◎  | ◎   |       |     | ◎  |
|                                           | ② 「豊岡版レッドリスト」を作成します。                   |              |        |       | ◎  | ○   |       |     | ○  |
|                                           | ③ レッドリストを用いた学習会を開催します。                 |              |        |       | ○  |     |       |     | ◎  |
|                                           | ④ 急激に拡大し、生態系を壊しつつある害獣への対策を強化します。       |              |        |       |    |     |       |     | ◎  |

目標の実現に向け コミュニティを生かした具体的な行動に取り組む

| 〈作戦3〉「基盤を守る」作戦！<br>地域を支える第一次産業を育てます。     |                                     | 関係するコミュニティ活動 |        |       |    |     |       |     |    |
|------------------------------------------|-------------------------------------|--------------|--------|-------|----|-----|-------|-----|----|
|                                          |                                     | 公民館          | 学校・PTA | 地域・市民 | 団体 | 専門家 | 農林水産業 | 事業者 | 行政 |
| 目標1．農業や化学肥料に頼らない農業が増え、田んぼの生態系が豊かになっています。 |                                     |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                          | ① 「豊岡市農業振興戦略」に基づき、豊岡型環境創造型農業を拡大します。 |              |        |       |    |     | ◎     |     | ◎  |
|                                          | ② 田んぼや水路の生態系機能を高めます。                |              |        |       | ○  |     | ◎     |     | ◎  |
|                                          | ③ 田んぼづくりに関する意識改革に取り組みます。            |              |        |       | ○  |     | ○     |     | ◎  |
| 目標2．市民や消費者と交流する生産者の顔が輝いています。             |                                     |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                          | ① 生産者と市民との交流機会を増やします。               |              |        |       |    |     | ○     | ◎   | ○  |
|                                          | ② 生産者と全国の消費者との交流機会を増やします。           |              |        |       |    |     | ◎     | ◎   | ○  |
| 目標3．地元で採れたものを優先して食べる人が増えました。             |                                     |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                          | ① 地元産品を扱う店舗や料理店の数を増やします。            |              |        |       |    |     | ◎     | ◎   |    |
|                                          | ② 学校給食における地元産品利用割合を、国の基準（3割）に近づけます。 |              |        |       |    |     | ◎     |     | ◎  |
|                                          | ③ 自家消費を目的とした「我が家の畑」を応援します。          |              |        |       |    |     |       |     | ◎  |
| 目標4．若い世代が第一次産業の大切さを理解しています。              |                                     |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                          | ① モデル校で、一年を通した農の営みをカリキュラムに採り入れます。   |              | ◎      |       |    |     | ○     |     | ○  |
|                                          | ② 就職希望学生に向けて、第一次産業の魅力をPRします。        |              |        |       |    |     | ○     |     | ○  |
|                                          | ③ 「豊岡農業スクール」などによる就農支援を行います。         |              |        |       |    |     |       |     | ◎  |

| 〈作戦4〉「つながる・つなげる」作戦！<br>人と人、地域と人とのつながりを深めます。 |                                        | 関係するコミュニティ活動 |        |       |    |     |       |     |    |
|---------------------------------------------|----------------------------------------|--------------|--------|-------|----|-----|-------|-----|----|
|                                             |                                        | 公民館          | 学校・PTA | 地域・市民 | 団体 | 専門家 | 農林水産業 | 事業者 | 行政 |
| 目標1．自然の中で遊ぶ子どもの姿をよく見るようになりました。              |                                        |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                             | ① 「子どもの野生復帰大作戦」を充実します。                 |              |        |       | ○  |     |       |     | ○  |
|                                             | ② 地域の方が講師となって、地域で行う「自然遊び教室」を実施します。     |              |        | ◎     |    |     |       |     |    |
| 目標2．親子で生きものや自然に触れ合う機会が増えています。               |                                        |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                             | ① PTAの学年行事に、生きもの調査や自然観察を採り入れます。        |              | ◎      |       |    |     |       |     |    |
|                                             | ② 生きものや自然に触れる親子イベントを数多く企画します。          | ○            |        |       | ○  |     |       |     | ○  |
| 目標3．地域の文化や伝統的な知恵・技が受け継がれています。               |                                        |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                             | ① 地域の伝統行事を把握し、整理します。                   | ○            |        |       |    |     |       |     | ○  |
|                                             | ② 存続の危機にある祭事（自然や生きものへのまなざし）の復活に取り組みます。 |              |        | ○     |    |     |       |     | ○  |
| 目標4．交流施設では、楽しい声が弾んでいます。                     |                                        |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                             | ① 拠点施設において、生物多様性の要素を充実します。             |              |        |       | ◎  |     |       |     | ◎  |
|                                             | ② 地域施設（地区公民館）に、生物多様性の要素を付加します。         | ◎            |        |       |    |     |       |     | ◎  |
| 目標5．日本中、世界中から訪れる人がいて、地元の人と交流しています。          |                                        |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                             | ① ターゲットを見据えた交流を進め、交流人口を増やします。          |              |        | ○     | ○  |     | ○     | ○   | ◎  |
|                                             | ② 豊岡を訪れる人と地域住民との交流機会を増やします。            |              |        | ○     | ○  |     | ○     | ○   | ◎  |

| 〈作戦5〉「効果を高める」作戦！<br>作戦を実行しやすいしくみをつくります。 |                                       | 関係するコミュニティ活動 |        |       |    |     |       |     |    |
|-----------------------------------------|---------------------------------------|--------------|--------|-------|----|-----|-------|-----|----|
|                                         |                                       | 公民館          | 学校・PTA | 地域・市民 | 団体 | 専門家 | 農林水産業 | 事業者 | 行政 |
| 目標1．行動のすべては、「見試し」の手法で実践されています。          |                                       |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                         | ① PDCAサイクルの手法を取り入れます。                 |              |        |       |    |     |       |     | ◎  |
|                                         | ② アダプティブマネジメント（適応管理）の手法を取り入れます。       |              |        |       |    |     |       |     | ◎  |
| 目標2．この戦略の実践を支える拠点が機能しています。              |                                       |              |        |       |    |     |       |     |    |
|                                         | ① まずは市役所を中心にスタートし、拠点を定め、ネットワークを構築します。 | ○            |        |       | ○  | ○   |       |     | ◎  |

◎ 特に主体となるコミュニティ  
○ 関係するコミュニティ

団体：市民団体、NPOなど  
専門家：研究者、大学など  
事業者：企業、商店など



作戦① まずは知る作戦

地域みんなが、地域の自然の豊かさや脆さをわかるようにします。

目標1 生きものの様子から季節の変化を感じ取り、その話題で会話が弾んでいます。

「フキノトウが顔を出しているよ」と近所の人が教えてくれたり、「コウノトリ初産卵」の記事を見ると、ようやく春が足元まで来たことが実感できます。

毎年変わることなく訪れる季節ごとの自然は、私たちの暮らしのリズムを整え、心を豊かに満たしてくれるものです。また、地元で四季折々に採れる旬の食べ物は、私たちの心身の糧として恵みを与え続けてくれています。

このような“自然”や“生きもの”の様子を意識し、季節の変化を感じ取ることができるような機会を増やします。

目標を実現するために

- 1 豊岡に住む生きものをリストアップし、「豊岡生きもの住民票」を作成します。  
(地域・市民, 団体, 専門家, 行政)
- 2 豊岡らしい季節のことばを集めた「豊岡時候のあいさつ集」を作成します。  
(地域・市民, 団体, 行政)
- 3 防災行政無線の放送で、これらの内容を積極的に活用します。  
(行政)
- 4 季節の特徴的な生きものや植物の観察会を開催します。  
(公民館, 学校・PTA, 地域・市民, 団体, 専門家, 行政)

目標2 「生きもの博士」と呼ばれる人が増えています。

学校の授業や地区行事で生きもの調査を経験して、生きものが大好きになった子どもがいます。大空を舞うコウノトリに魅せられて、観察を続ける夫婦がいます。

「鳥のことならあの人に」「魚のことはあの人に」「植物ならあの人だ」など、市民の中に「生きもの博士」がたくさん現れるよう、取組みを進めます。

目標を実現するために

- 1 地域の生きもの博士情報を集め、「豊岡生きもの博士名鑑」を作成します。  
(公民館, 団体, 専門家, 行政)
- 2 博士を増やすための「生きもの検定」を実施します。  
(公民館, 学校・PTA, 地域・市民, 団体, 専門家, 行政)

目標3 地域の生きものの現状が科学的に整理され、その情報が共有されています。

今では、自然の様子を科学的に解明することが可能になりつつあります。上手く利用すれば、生きものやその生息地を効果的に保全することができます。

まずは、全国的に広まりつつある地理情報システム (GIS※) を活用して、地形や動植物調査結果などを一体的に管理し、生物多様性保全に必要な情報を様々な角度から検証・提案できるようします。

目標を実現するために

- 1 地域の生きもの情報を詰め込んだ「豊岡版GIS」を構築します。  
(地域・市民, 団体, 専門家, 行政)
- 2 その情報を、公共工事や自然再生の取組みに活用します。  
(地域・市民, 団体, 専門家, 行政)

※GIS…Geographic Information System

「ビオトープの位置」や「生きもの調査結果」といった様々なデータを、地図と結びつけて表示・分析するシステム。

目標4 小学校区ごとに「生きもの地図」が備えられています。

小学校区には、それぞれ特色ある自然環境があり、特有の文化環境が根付いています。それぞれの特徴を大切に、次世代に引き継ぐために、現在の暮らしや生きものの様子などを調べて保管し、学びに活用します。「生きもの地図」は、みんなで地域の宝物を探し、磨いていく教材として作成するものです。

目標を実現するために

- 1 「生きもの地図」づくりをサポートするしくみをつくります。  
(地域・市民, 団体, 専門家, 行政)

地域全体で「生きもの地図」づくりに取り組むことを目指し、生きもの博士や公民館、専門家、市民によるサポートのしくみをつくります。作成した地図情報は、「豊岡版GIS」にも盛り込みます。

- 2 地図の作成、活用に関するマニュアルをつくります。  
(団体, 専門家, 行政)

- 3 いくつかの小学校区で、モデル的に「生きもの地図」を作成します。  
(公民館, 学校・PTA)

作戦② 行動に移す作戦

多様な生きものが住みやすい環境を増やします。

目標1 行政も地域も、生きものに配慮した行動を心がけています。

道路建設や河川改修などの公共事業を行う際には、生物多様性の損失につながる要因をできるだけ少なくするよう心がけます。行政が率先して生物多様性の保全に取り組み、市民や企業の参加を促して、その輪を広げます。常日頃から、生きものへの眼差しにあふれるまちを目指します。

目標を実現するために

- 1 公共事業における「生きもの配慮の指針」をつくります。  
(専門家, 行政)

公共事業を行う際に、生きものへの配慮があたりまえにチェックされるようなまちを目指して、指針をつくります。

- 2 地域で行うクリーン作戦を「クリーン＆グリーン作戦」へと転換します。  
(地域・市民, 行政)

クリーン作戦の際に外来雑草を刈り取るなど、通常作業に生きものへの配慮をプラスした作戦を「クリーン＆グリーン作戦」と位置づけて、地域の日役での自然環境保全が定着するようにします。

- 3 「歩いて暮らすまちづくり」に環境保全の要素を附加します。  
(地域・市民, 団体, 行政)

市域に広がりつつある歩キング。歩いていると、車に乗ってはいはわからない細部の風景に出会えます。「毎日のウォーキングの際に、10本のセイタカアワダチソウを抜く！」これだけでも道端の風景が、確実に変わっていきます。気軽に行えて、健康にも環境にも良い行動を推進します。

- 4 生物多様性保全のためにも「豊岡市景観計画※」を推進します。  
(地域・市民, 事業者, 行政)

※豊岡市景観計画（平成24年8月）

先人から受け継いだ「豊岡らしい風景」を未来に継承するため、市、市民、事業者が協働して豊岡らしい景観を守り育てようとする計画です。

「風景づくりの共通方針」として、以下の3項目を掲げています。

- 1) 景観の基盤となる地形風土を知り、地域環境に現れる眺めの特徴を保全する。
- 2) 自然と折り合う暮らしと土地の使い方を理解し、その空間構成を継承する。
- 3) 生物多様性を育む自然環境との調和を図る。

目標2 豊岡で暮らすコウノトリたちが、安定して生活しています。

コウノトリが地域個体群として定着できることは、生態ピラミッドがバランス良く保たれていることを示しています。現在の8ペア以上が毎年繁殖行動し、豊岡盆地を中心に市外にも生息域を広げて、豊岡の地域個体群を形成・維持している状態を目指します。

コウノトリが徐々に普通の野鳥状態になったとしても、以前にも増して暖かく見守るとともに、生息環境をより良くする手を休めません。

目標を実現するために

- 1 コウノトリ野生復帰に関する市民との情報共有を強化します。  
(団体, 専門家, 行政)
- コウノトリの生息状況や、野生復帰への取り組みの現状などの情報を常々共有できるようにし、コウノトリ野生復帰への関心を高めます。
- 2 見守りなどを通じて、野外のコウノトリと地域との関わりを生み出します。  
(団体, 専門家, 行政)
- 毎年繁殖に訪れたり頻繁にエサを採りに来るコウノトリを、わが村のコウノトリとして愛着を持って見守ってもらうことから始めます。
- 3 コウノトリの生息地保全(保存・再生・創造)を進めます。  
(地域・市民, 団体, 専門家, 行政)



目標3 市内各地に「春の小川」がイメージできる水辺があります。

「子どもたちに川で遊んでいてほしい——。」しかし現実には、そんな場所はどんどん少なくなっています。

「春の小川」とは、“清らかな水がサラサラと流れ、岸辺にはスミレやレンゲが咲き、メダカや小ブナが群れる川で子どもたちが魚とりに興じている、それを大人たちが暖かく見守っている”そんな唱歌を連想させるような小川や水路を言います。

各地域で「ここが『春の小川』になればいいな」と思う場所を決めて保全や再生に取り組み、15年後にはすべての小学校区に特徴ある「春の小川」が流れていることを目指します。

目標を実現するために

- 1 「春の小川」の基準を定めます。  
(団体, 専門家, 行政)
- 2 「春の小川」づくりをサポートするしくみをつくります。  
(公民館, 団体, 専門家, 行政)
- 地域全体で「春の小川」づくりに取り組むことを目指し、マニュアルの作成と、団体、専門家によるサポートのしくみをつくります。
- 3 モデル的に「春の小川」づくりに取り組む地域を募り、実践します。  
(公民館, 地域・市民)

春の小川  
高野辰之作詞・岡野貞一作曲

春の小川は、さらさら行くよ。  
岸のすみれや、れんげの花に、  
すがたやさしく、色うつくしく、  
咲けよ咲けよと、ささやきながら。

春の小川は、さらさら行くよ。  
えびやめだかや、こぶなのむれに、  
今日も一日、ひなたでおよぎ、  
遊べ遊べと、ささやきながら。

目標4 市街地・住宅地でも多くの生きものと触れ合うことができます。

商店や住居が立ち並ぶ市街地にも、生きものたちが暮らしています。住宅の庭木や街路樹、公園や神社などは、河川や水路と一緒にあって生きものが移動する回廊（生きものの通り道）の役目を果たしています。生きものの視点に立って捉え直し、人も生きものも住みやすい市街地・住宅地を目指します。

目標を実現するために

- 1 市民は、プランターや庭で緑を生み出します。  
(地域・市民)

- 2 地域は、神社や公園を緑や生きものの拠点として管理します。  
(地域・市民)

地域の神社や寺には、言い伝えと共に大きな木や古池が大切に残されています。そこは、実は生きものにとって心地よいすみかでもあります。また公園にも緑が確保され、人や生きものの憩いの場になっています。生物多様性の視点からも、重要な場所として認識する必要があります。

- 3 行政は、各ポイントを「回廊」として機能させることを意識します。  
(行政)

庭の木や神社や公園、水路……。島状に散らばった緑地や水辺をつなげば、生きものの行動可能範囲が広がり、住宅地でも多様な生きものに会えることができます。

目標5 ラムサール条約登録エリアが広がりました。

平成24年7月に、「円山川下流域・周辺水田(560ヘクタール)」が国際的に保全すべき重要な湿地としてラムサール条約湿地に登録されました。このエリアでは、国内外との交流も増えて地域が活性化するとともに、生物多様性の取り組みも一層活発化の様相が見えてきました。

今後、登録エリアを拡大するとともに、登録された地域の責務として生物多様性保全活動の輪が広がることを目指します。

目標を実現するために

- 1 登録エリアにおける保全やワイズユース(賢明な利用)の取り組みを充実します。  
(団体、行政)

登録エリアにおける活動が地域活性化の好事例となるよう、住民や団体と協力して自然再生・環境保全活動に重点的に取り組みます。

- 2 登録エリアをモデルに取り組みや意識を周辺に広げ、エリアを拡大します。  
(団体、行政)

- 3 学校教育でラムサール登録に触れ、誇りを醸成します。  
(学校、PTA)

ラムサール条約

世界的に重要な湿地を評価し、保全するための国際条約。国家間で協力して、水辺の自然を守っていくことを目的としています。

日本では、46箇所の湿地がラムサール条約湿地に登録(2012年7月時点)されており、湿原や河川のほか、田んぼや池、水深6mまでの海岸も含まれています。

豊岡では、河川、人工湿地、田んぼ、海岸などを含む「円山川下流域・周辺水田」がラムサール条約湿地に登録されており、コウノトリをはじめとする希少な生きものを育んでいます。

ラムサール条約の目的は“湿地の保全”です。コウノトリ野生復帰を通じて得られた経験をもとに、これらの湿地を健全な状態で次の世代へ引き継ぐことが、私たちの責務であると言えます。



**目標6 在来の生態系を乱す外来種の侵入・増加を防いでいます。**

本来豊岡に生息していなかった外来種が増えると、在来種が捕食されたり、生息の場を追われてしまいます。また私たちの生活を脅かしたり、農作物に被害を与えることもあります。

このように外来種は、豊岡の自然環境や生態系に及ぼす影響がとても大きいので、侵入や繁殖を許してはなりません。広がったものを一度に駆除することはとても困難なので、常日頃から多くの人の目で監視し、早めに措置できるような仕組みをつくります。

**目標を実現するために**

**1 外来種の監視と駆除を計画的に行います。**  
(団体, 専門家, 行政)

**2 「豊岡版ブラックリスト」を作成します。**  
(団体, 専門家, 行政)

外来種など、豊岡本来の生態系に影響を及ぼす生きものを、「豊岡版ブラックリスト」にまとめます。

**3 ブラックリストを用いた学習会を開催します。**  
(団体, 行政)

**4 地域の共同作業に、外来種対策の要素を組み入れます。**  
(地域・市民)

クリーン作戦や水路清掃の際にセイタカアワダチソウを抜く。これだけでも立派な外来種対策です。市域のすみずみまで行われている共同作業。小さな意識で大きな変化をもたらすはずです。

**目標7 希少になった生きものや生態系に、個別の保護対策が進められています。**

豊岡では、ヒヌマイトトンボやアベサンショウウオ、ミズアオイなど、絶滅の危機に瀕している生きものも少なくありません。このような生きものたちを将来に残していくため、現状を的確に把握するとともに、細やかな対策を行う必要があります。

市では、希少な野生生物の研究者や保護活動をしている人と協力して、保護・増殖の対策を進めます。

**目標を実現するために**

**1 希少生物の監視と保護を計画的に行います。**  
(団体, 専門家, 行政)

**2 「豊岡版レッドリスト」を作成します。**  
(団体, 専門家, 行政)

豊岡で希少になった生きものや生態系を「豊岡版レッドリスト」にまとめます。

**3 レッドリストを用いた学習会を開催します。**  
(団体, 行政)

**4 急激に拡大し、生態系を壊しつつある害獣への対策を強化します。**  
(行政)

山では、増えすぎたシカが下草をすっかり食べてしまい、山肌がむき出しになっています。田んぼや畑にも頻繁に現れ、農作物を荒らします。人々の生活にも、多様な生態系にも影響を及ぼす害獣への対策を強化します。



外来種は、「持ち込まない・持ち出さない・リリースしない」が基本原則です。まずは外来種を知ることからはじめましょう。



作戦③ 基盤を守る作戦

地域を支える第一次産業を育てます。

目標1 農薬や化学肥料に頼らない農業が増え、田んぼの生態系が豊かになっています。

“まずは土づくりから”で始まった「環境創造型農業」は、地元の地力を確かな知識と技術でさらに高めてきました。そこでは、農産物と一緒に多様な生きものが田んぼや畑の生態系を構成しています。農地が“安全・安心”プラス“多様な生きものの生息地”になったことで人々の関心を集め、外部との連携・交流も活発化し、農業に勢いが出ています。

「環境創造型農業」がさらに広がり、全ての農家が田んぼや畑の生きものに関心を持ってもらうことを目指します。

目標を実現するために

- 1 「豊岡市農業振興戦略※」に基づき、豊岡型環境創造型農業※を拡大します。  
(農林水産業, 行政)
- 2 田んぼや水路の生態系機能を高めます。  
(団体, 農林水産業, 行政)
- 3 田んぼづくりに関する意識改革に取り組みます。  
(団体, 農林水産業, 行政)

水路と田んぼをつなぐ「水田魚道」や、生きものの逃げ場となる「マルチトープ」が、しっかりと機能するよう生産者に求めます。また設置への理解が広がるよう、働きかけます。

農業・林業・水産業などの第一次産業は、自然の恵みを一方的に利用するだけでなく、自然に対して働きかけも行うことで、長い時間をかけて豊かな生態系を形成してきました。里山は人手が入ることで生物多様性のバランスが保たれていますし、人間の作った田んぼは5000種類以上の生きものを育てています。第一次産業は、単に私たちの生活基盤を安定させているだけでなく、生物多様性の保全にも密接に関わっています。

※豊岡市農業振興戦略（平成 24 年 3 月）

持続可能な農業と、自然環境に配慮した農業の経済的な自立を目指し、環境創造型農業に特化して策定した戦略。豊かな地域資源を活かし、安全で安心な農産物を生産する元気の出る農業・農村の実現を目指している。

※豊岡型環境創造型農業

環境への負荷を軽減するため、堆肥等の有機質資材を用いた土づくりを基本に、化学肥料や農薬の使用を一般栽培の 50%以上低減する農業。

目標2 市民や消費者と交流する生産者の顔が輝いています。

「朝日を受けたクモの巣が、キラキラと綺麗だった。」—— 無農薬の米作りに取り組む農家の言葉です。農薬や化学肥料に頼らない農業を続けていると、田んぼには多くの生きものが暮らすようになったと言われます。

生産者が自信をもって誇らしげに説明する姿は、魅力的で頼もしく感じます。こうした農家がさらに増えることで、第一次産業を持続可能にし、生物多様性の保全につなげることができます。

目標を実現するために

- 1 生産者と市民との交流機会を増やします。  
(農林水産業, 事業者, 行政)
- 2 生産者と全国の消費者との交流機会を増やします。  
(農林水産業, 事業者, 行政)

市民が地元の農業を知る機会を創出します。例えば、農業体験を行う小学校には、出前講座の積極的な活用を進めるなど、生産者の声を聞く機会を増やします。

ホームページや都市部での販売促進活動を通じて、全国の消費者に豊岡型環境創造型農業の魅力をPRします。また流通事業者などと連携し、農業体験などの機会を増やします。

「安全なものが作りたいと思ったからやったんだ。儲かるとか、コウノトリのためとか、最初はそうは考えなかった。」ある農家は、環境創造型農業を始めたきっかけについて、こう語られました。安全で安心なものを食べてもらいたいという一心で環境創造型農業を続け、水が循環している農地全体で取り組む必要があると、周囲の農家を説得してまわられたそうです。今では近隣の多くの農家が、環境創造型農業に取り組むようになりました。

ポイントは「誰にでもできるから、皆で取り組むことが重要。成功者に学び、成功者の真似をすればいい。」とのこと。同じように取り組めば、自然は同じように成果を与えてくれるのだそうです。



### 目標3 地元で採れたものを優先して食べる人が増えました。

安全で安心な食生活は、素材選びから始まると言われます。身近な場所でとれる農水産物は、新鮮であると同時に生産者の顔が見える安心なものであり、積極的に利用したい食材です。また、春・夏・秋・冬の旬の食材は、生物多様性に支えられています。

自分たちの食べる食材の生産現場を知り、食や自然への理解を深めることからはじめ、地域と農水産業が支えあう姿を目指します。

#### 目標を実現するために

- 1 地元産品を扱う店舗や料理店の数を増やします。  
(農林水産業, 事業者)

「豊岡版緑提灯の店」のシステム構築を目指し、先進事例の調査や関係団体との調整を図ります。

- 2 学校給食における地元産品利用割合を、国の基準(3割)に近づけます。  
(農林水産業, 行政)

- 3 自家消費を目的とした「我が家の畑」を応援します。  
(行政)

「我が家の畑」は、いちばん身近な地産地消です。作物を通じて地域との交流も生まれ、地域景観にとって重要な場所でもあります。

### 目標4 若い世代が第一次産業の大切さを理解しています。

地域を支える第一次産業を元気にしていくためには、次世代を担う若い人たちの理解と協力が欠かせません。そのためには、自分たちの生活基盤がどのような産業によって成り立っているか、しっかりと考える機会が必要です。

若い世代をターゲットに第一次産業への理解を深め、保全に取り組んだり、第一次産業に就業する若者を増やします。

#### 目標を実現するために

- 1 モデル校で、一年を通した農の営みをカリキュラムに採り入れます。  
(学校・PTA, 農林水産業, 行政)

- 2 就職希望学生に向けて、第一次産業の魅力をPRします。  
(農林水産業, 行政)

- 3 「豊岡農業スクール※」などによる就農支援を行います。  
(行政)

※豊岡農業スクール

新規就農者と後継者の確保・育成を目的に、就農意欲の高い若者を対象として、先進的な農業経営者のもとで技術や経営力などを習得するためのプログラム。(平成25年度～)



### 作戦④ つながる・つなげる作戦

人と人、地域と人とのつながりを深めます。

### 目標1 自然の中で遊ぶ子どもの姿をよく見るようになりました。

本来、子どもは自然のなかで遊びながら、楽しさや怖さなどを体得していきます。しかし、今日では子どもたちがのびのびと遊べる場所が少なくなっています。

自然のなかでのびのびと遊べることは、山・里・川・海が本来の姿で機能している証拠でもありますし、そのような環境を取り戻すことは、生物多様性を取り戻すことでもあります。

#### 目標を実現するために

- 1 「子どもの野生復帰大作戦」を充実します。  
(団体, 行政)

自然体験の場として多くの子どもたちが参加している「子どもの野生復帰大作戦」で、自ら考え行動できる子どもが増えるよう、内容の充実を図ります。

- 2 地域の方が講師となって、地域で行う「自然遊び教室」を実施します。  
(地域・市民)

リタイア世代が中心となって「自然遊び教室」の講師を務めることで、子ども世代に自然との関わり方を伝えるとともに、リタイア世代の方に元気に活動してもらおうことを目指します。

#### 活動紹介

日高町八代地区では、素晴らしい自然環境の中で子供達をのびのび育てようと、地元のジジ・ババが集まって「やしろジッパー」として活動されています。

「八代っ子自然広場」をフィールドに、地域のリタイア世代から自然との関わり方を学ぶ子どもたちの笑顔は、キラキラと輝いています。

### 目標2 親子で生きものや自然に触れ合う機会が増えています。

自然の中で遊ぶことが少なくなったと言われる子どもたちですが、親世代もまた十分な自然体験を積んできたわけではありません。子どもたちと一緒に自然に触れる機会を増やし、子どもを指導することができる大人を増やします。まずは、親子で自然体験を楽しむことから始めます。

#### 目標を実現するために

- 1 PTAの学年行事に、生きもの調査や自然観察を採り入れます。  
(学校・PTA)

- 2 生きものや自然に触れる親子イベントを数多く企画します。  
(公民館, 団体, 行政)

**目標3** 地域の文化や伝統的な知恵・技が受け継がれています。

それぞれの地域では、郷土かるたづくりや地域探検など、地区公民館などが主体となって地域文化の価値を再発見するための取り組みが、数多く行われています。

これらの活動を調査・整理し、小中学校でのふるさと教育などに活かすとともに、地域行事に目を向けることのできる地域人を育て、地域の無形財産を守ります。

**目標を実現するために**

- 1 地域の伝統行事を把握し、整理します。  
(公民館, 行政)
- 2 存続の危機にある祭事(自然や生きものへのまなざし)の復活に取り組みます。  
(地域・市民, 行政)

**目標4** 交流施設では、楽しい声が弾んでいます。

生物多様性保全の推進拠点となるコウノトリ文化館やハチゴロウの戸島湿地、また地域の“つながり”の核となる地区公民館などの交流施設で、多くの人々が生物多様性について学びあい交流できるようにします。

**目標を実現するために**

- 1 拠点施設において、生物多様性の要素を充実します。  
(団体, 行政)
- コウノトリ文化館やハチゴロウの戸島湿地では、行政と市民団体との協力体制の強化に努めます。市民団体や自然愛好家による展示を積極的に取り入れるなど、訪れる人が自然や生きものを話題にできるような場づくりを進めます。
- 2 地域施設(地区公民館)に、生物多様性の要素を付加します。  
(公民館, 行政)
- 小学校区を単位とした“つながり”の核となる公民館へは、出前講座や講師派遣などの支援を充実します。地域の人々が活動への参加を通じて、まちづくりのために集まるきっかけとなるように働きかけます。

**目標5** 日本中、世界中から訪れる人がいて、地元の人と交流しています。

豊岡には、世界ジオパークに認められた山陰海岸やラムサール条約登録湿地など、地域固有の自然・文化・歴史によって形成され、世界に認められた自然環境があります。これらの自然は、多様な生きものの生息地として重要な場所であると同時に、コウノトリとともに暮らす、独特の文化を生み出してきました。

このような独特の自然環境と文化環境に魅せられた人たちが豊岡を訪れ、地元の人々と交流している姿を目指します。

**目標を実現するために**

- 1 ターゲットを見据えた交流を進め、交流人口を増やします。  
(地域・市民, 団体, 農林水産業, 事業者, 行政)
- 2 豊岡を訪れる人と地域住民との交流機会を増やします。  
(地域・市民, 団体, 農林水産業, 事業者, 行政)





作戦 5 効果を高める作戦

作戦を実行しやすいしくみをつくります。

目標 1 行動のすべては、「見試し」の手法で実践されています。

「穏やかに響きあういのちと地域」という目標像の達成にむけて、一つひとつ確実に実行していくことは、いわば“挑戦する”ということです。必然的に試行錯誤が基本となるでしょうから、行動計画に掲げる項目の全ては、「見試し」の手法をとります。

目標を実現するために

- 1 PDCAサイクルの手法を取り入れます。  
(行政)
- 2 アダプティブマネジメント(適応管理)の手法を取り入れます。  
(行政)

目標 2 この戦略の実践を支える拠点が機能しています。

この戦略の実践には、学校、地域、団体、専門家などの参画が欠かせません。  
市は、コウノトリ文化館・ハチゴロウの戸島湿地などの市の施設だけでなく、環境省竹野スノーケルセンター、県立コウノトリの郷公園など、国や県の機関とも連携しながら戦略を着実に進めます。

目標を実現するために

- 1 まずは市役所を中心にスタートし、拠点を定め、ネットワークを構築します。  
(公民館, 団体, 専門家, 行政)

5 推進のあり方

豊岡市生物多様性地域戦略を確実に実践し、目標とする“穏やかに響きあういのちと地域”を実現するためには、市民、専門家、事業者、行政などがそれぞれの役割を十分に認識し、相互に連携する関係を構築することが重要です。

また、さまざまな主体と協働してこの戦略の進捗状況を点検し、施策の見直しを行うことも必要です。

市では、各主体間の連携を強化して戦略の推進を図るとともに、戦略の成果を検証する仕組みを構築し、この取り組みを確かなものにします。

各主体間の連携の推進

市は、関係する主体を横断的につなぐ役割を担います。生物多様性保全に取り組む人や組織のネットワークを広げ、情報の共有・発信と相互の連携を強め、効果的な活動を推進します。

市役所内部の連携の推進

戦略の実践には、個別の担当部局だけでなく、市役所内部の連携も欠かせません。そのため、関係する部署による庁内ワーキングを進めるなど、連携しながら戦略を実践します。

様々な主体との協働の推進

この戦略は、学識経験者・市民・NPO・高校生・国・県などと協働して検討を進めてきました。戦略の実践段階においても様々な主体と協働し、目標の実現を図ります。

成果の検証

市民・専門家・NPOなどによる、戦略の進捗状況を点検し、成果を検証する組織を立ち上げます。生物多様性の状況を評価する指標を設定し、現状の分析と新たな施策の検討を進めます。  
また、検証の結果を適宜公表し、取り組みの質を上げるとともに、協働の輪を広げます。

